
普通の.....

究極神団・零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

普通の……

【Nコード】

N2260J

【作者名】

究極神団・零

【あらすじ】

僕は普通の中学二年生……、そう、普通の……

プロローグ（前書き）

えーと……

ちょっとした学園物です

暇潰し程度に読んで頂ければと………

プロローグ

此処は

とある場所のとある学園

「ふあ……………」

僕、ゆうがみかいと悠神海斗はこの学園に通う普通の中学二年生……………

そつ……………、普通の……………

「おい海斗、」

また来た……………

このちよつと太った人はさかきこうろ榊吾朗、いわゆる虐めっ子だ

「バナナ買ってこ」「やだ」……………」

なんでバナナなのか分からないけど何時も僕をパシリにする

「ッ！ お前、どうなるか分かってんだろっなっ！」

吾朗が僕の胸ぐらを掴む

「其はこっちの台詞だよ……………」

何時もは普通に掻い潜って逃げるんだけど……………

もう流石にうんざりしてきた……………

めんどくさいからちよっとお仕置きしよっと……………

「お前なんか……………、こっただっ！」

僕を右の拳で殴ろうとする

「ハイハイ……………」

僕は指をパチンと鳴らす

すると吾朗の動きが止まる

いや、吾朗だけじゃない

回りの皆も、落ちる木の葉も、揺れる花びらも、風も、時計の針も

……………

そう、時間が止まったのだ

僕は今の内に吾朗の後ろに回り込んでまた指をパチンと鳴らす

「　　?!」

吾朗は今さっきまで目の前に居た筈の僕が居ない事に拳を止める

「お休み……………」

そして僕は吾朗の首の後ろを強く叩く

「がはっ……………」

そして吾朗は……………、気絶した

「ふう……………、放課後だからいいもの……………、放課後じゃ無かつたら……………」

そう、今は放課後

だから回りには人は殆ど居ない

まあ吾朗は此所に放って置いてても問題はないかな……………

さあ、帰ろつと……………

お分かりの通り、僕はほんの少しだけ、時間を操る事が出来る……………

普通の中学二年生……

普通だと、信じたい……

プロローグ（後書き）

感想、評価待ってます

うん……………普通かな……………普通だな……………普通……………（前書き）

はっきりとしたストーリーは決まっては無いです

でもたった一つだけ

ただひたすらに普通を求める話です

まあ主人公自体が普通じゃ無いですが……………

うん……………普通かな……………普通だな……………普通……………

帰り道

「今日も平和だなあ……………」

思いつきり背伸びをして身体をならす

「……………っし」

なんか身体がポキポキ鳴っている

まあ普通だろう……………

「しかしまあ……………、眠い……………」

今が春だからか？
なら普通か……………

「速く帰って寝よう……………」

ちよつと足早に自宅に向かった

だがそんなに甘くは無かった

「んだ餓鬼イ？」

「何処に眼えつけとんじゃワレエ！」

「……………」

ハア……………」

めんどくさい……………」

なんで不良がたむろってるかなあ……………」

全然普通じゃない……………」

「いてまうどゴラァー!!」

ひい、ふう、みい……………」

三人か……………」

ちよつと面倒だけど……………」

「逝ねやあ!!」

「……………ハイハイ」

僕は指をパチン、と鳴らす

そう、時間を止めたのだ

「……………サヨナラ」

動かない不良達に一発ずつキツイ一撃をぶちこんで再び指をパチンと鳴らす

「「???!!」」

不良達はさっきまで僕が目の前に居たのに消えたと思ったたらしく探そうとした束の間謎のダメージを受けてその場に倒れる

「逝くのはそっちだったみたいだね……………」

僕は吐き捨てるように不良達にそう言い自宅に向かって歩き出した

「只今」

やっと家に着いた……………

速く自分の部屋に……………

「遅ーい！」

「へぶっ！」

僕は突撃してきた幼馴染み、史城澪ふみしろみおに玄関まで吹き飛ばされる

「私がどれだけ待ったのか分かってるの?!」

「……………」

僕は痛む身体をゆっくり起こしながら澪にこう言う

「どれだけって……………、まだ十分も経ってないぞ」

しかも何回か時間を止めたから余計に時間は経っていない

だが、

「遅いものは遅いの!」

滅茶苦茶だろ……………

絶対普通じゃない……………

「……………寝る」

相手にするのが面倒だ

僕は澪を放置してそそくさと自分の部屋に向かい鍵を閉めた

澪が入って来ないように

「やっと眠れる……………」

枕の上に頭を乗せた瞬間

なんか物凄い音がしたと思ったら、
澪が扉をぶち壊して入ってきた
なんて事をしてくれる

「……………普通じゃないぞ」

僕はそう呟いて布団を被り眠る

……………

……………あれ？

何時もなら「起きなさい！」とか言いながら布団を捲る筈……………、
そう言えば足元に違和感が……………

「……………?」

足元を見ると

「今日は私も一緒に寝る！」

「……………」

なんてこつた俺は普通に一人で寝たいんだ

大体男女が一つ屋根の下で一つの部屋で一つのベッドで一緒に寝る
って……………」

「全然、普通じゃない……………」

とりあえず一つ言わせて欲しい

扉弁償して

うん.....普通かな.....普通だな.....普通.....(後書き)

感想、評価待ってます

普通の時を下さい……………変態が……………変態がああああ……………（前書き）

よくよく見ると一人称が定着してなかったという（汗）

久しぶりの更新です（汗）

何故か半分近くが殆どネタという（汗）

では……………どうぞ

普通の時を下さい……………変態が……………変態がああああ……………

しかしまあ改めてよく考えてみたんだが、

確実にコイツ……………不法侵入だよな

だってこの家には俺以外住んで無いし鍵も俺が持つてる一つしか無いし……………いったいどうやって忍び込んだんだ？ 隠し通路でも作って其所から侵入したのか？ まあどうでもいいがまず一つ……………

「帰ってくれ」

うん。この一言に尽きるな。うん
後扉も弁償しろ。なんか落ち着かんからな

「やだ」

「いいから帰れ」

「一緒にいたいのに！」

……………相手をするのが面倒になってきた。ああ、胃が痛い。頭も痛い。

心も痛い。

心は嘘だが胃と頭まマジだ。

誰か……変わってくれ……

……そしてトイレ………

そう言えばそろそろエイプリルフルが近付いて来てるみたいだな。なにやら色々嘘つきグッズなるものがよく販売されてるのを見かける。まあどうせビックリ箱とかその辺りだろうな。そんな事よりも俺はこの現実が嘘だと言って欲しいがな。

あの後トイレに駆け込み踏ん張る事5分、ただ時間が無駄になっただけだった。

トイレから出た俺はちゃんと水と石鹸で手を洗い自分の部屋に向かった。今度こそアイツに帰って貰おうと思って部屋に入ったら

……目のやり場に困っている

何故ならば

「なにがどうなったら下着姿になるんだ……」

この5分の間にいったい何があった？ 知りたく無いが気にはなる。
てかわざとなのか？ わざとなんだな？ 俺を困らして楽しむ為に
やってるんだな？ そうなんだな？

「んあ……」

つーか起きろ、服を着ろ。やっぱ起きる前に服を着ろ。そして帰れ

「むにゅ……かいとお……」

……なんだ寝言か、脅かしやがって

「もつと構ってよお……むにゃ……」

……よし。布団に丸めて棄てよう。コイツ
なんつー夢見てんだお前は。変態か?! 変態なのか?! 変態な
んだな?! とりあえずお前はお外にぽーいだ! もう確定事項だ
! 行くぞ?!

「ん……?」

こんな時に起きんなああああ! 明らかに誤解を招く状況じ
やねえか! 墓穴なんて掘りたくねえ!

「お、お前が悪いんだから!」

俺は悪くない。何も悪くない。俺は只の中学生だ

「かいとお」

だあー!ー!

いい加減にしてくれえええ!
ホントになんなんだお前はあ?!

てかやべえよ! 人が来ちまった!

どうすればいい? どーすんのよ? どーすんのよ俺?!

否、答はひとつ！

「ザ・ワールド！」

……ハア、此でなんとか。今のうちに……

言っておくがパクリじゃないぞ?! ただこの言葉が閃いたんだ！
誤魔化す為の言葉が！

だから俺は例によって例の如く時を止めた。今のうちにどうにかせねば……

もうホントに頼むから……普通に平凡に暮らさせてくれ……

速く今日という日が終わってくれ……

学校が安息の地ってなんなんだ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2260j/>

普通の.....

2010年10月9日03時53分発行